

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所（耐津波設計方針）

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-基-006	基本設計方針に関する説明資料	p.6,7,86,87, 117,118	「断層による地殻変動」を「断層から想定される地震による地殻変動」に適正化しました。	2021/11/18	
2	NS2-基-006	基本設計方針に関する説明資料	p.7,87,118	「隆起である」を「隆起を考慮する」に適正化しました。	2021/11/18	
3	NS2-基-006	基本設計方針に関する説明資料	p.7,87,118	「広域的な余効変動については、基準地震動Ssの評価における」の「広域的な余効変動については、」を削除しました。	2021/11/18	
4	NS2-基-006	基本設計方針に関する説明資料	p.7,87,118	「広域的な余効変動は生じておらず、」の「生じておらず、」を削除しました。	2021/11/18	
5	NS2-基-006	基本設計方針に関する説明資料	p.14,93,127	新設するタービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間を既設弁の動作実績等に基づき「約40秒」としていたが、詳細設計を反映し「約60秒」へ変更した。なお、弁の閉止時間を変更しても津波到達までに隔離可能である。	2021/11/18	
6	NS2-基-006	基本設計方針に関する説明資料	p.130	「大量送水車及びその附属品である水中ポンプ」を「大量送水車及びその付属品である水中ポンプ」に適正化しました。	2021/11/18	
7	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6,61	「断層による地殻変動」を「断層から想定される地震による地殻変動」に適正化しました。	2021/11/18	
8	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6,61	「隆起である」を「隆起を考慮する」に適正化しました。	2021/11/18	
9	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6,61	「広域的な余効変動については、基準地震動Ssの評価における」の「広域的な余効変動については、」を削除しました。	2021/11/18	
10	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6,61	「広域的な余効変動は生じておらず、」の「生じておらず、」を削除しました。	2021/11/18	
11	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6	「安全側に評価するため、地殻変動量について」を「安全側に評価する際には」に適正化しました。	2021/11/18	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
12	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6	「0.34mの隆起」を「地殻変動量0.34mの隆起」に適正化しました。	2021/11/18	
13	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.6	「基準津波による入力津波が有する数値計算上の不確かさ」を「基準津波による」を削除しました。	2021/11/18	
14	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.8	「上記(1)及び(2)において、外郭防護として」を「上記a.及びb.において、外郭防護として」に適正化しました。	2021/11/18	
15	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.9	新設するタービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間を既設弁の動作実績等を考慮して設定していたが、詳細設計の段階で「約40秒」の設定は困難なことが判明したため「約60秒」へ変更した。なお、弁の閉止時間を変更しても津波到達までに隔離可能である。	2021/11/18	
16	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.66	表4-3(1)の名称に「(日本海東縁部に想定される地震による津波)」を追記しました。 「表4-3(2) 遡上波による設計又は評価に用いる津波高さ(海域活断層から想定される地震による津波)」を追加しました。	2021/11/18	
17	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.76	表4-4(1)の名称に「日本海東縁部に想定される地震による津波、」を追記しました。	2021/11/18	
18	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.77	「表4-4(2) 評価箇所における設計又は評価に用いる経路からの津波による津波高さ(海域活断層から想定される地震による津波、水位上昇側)」を追加しました。	2021/11/18	
19	NS2-添1-004	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.78	表4-4(3)の名称に「日本海東縁部に想定される地震による津波、」を追記しました。また、2号機取水槽の水位を「EL-6.1m」に変更し、注記を追加しました。 「表4-4(4) 評価箇所における設計又は評価に用いる経路からの津波による津波高さ(海域活断層から想定される地震による津波、水位下降側)」を追加しました。	2021/11/18	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
20	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.8,33,34,36	「敷地への浸水防止（外郭防護1）」の「浸水」は誤記であるため、「敷地への流入防止（外郭防護1）」に適正化しました。	2021/11/30	
21	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.8	「津波による敷地への浸水を防止するため」の「浸水」は誤記であるため、「敷地への津波の流入を防止するため」に適正化しました。	2021/11/30	
22	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.8	「津波防護対象設備を内包する建屋及び区画が、津波により浸水する可能性」の「浸水」は誤記であるため、「津波防護対象設備を内包する建物及び区画に津波が流入する可能性」に適正化しました。	2021/11/30	
23	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.8	「津波による津波防護対象設備を内包する建屋及び区画の浸水を防止できる・・・」の「浸水」は誤記であるため、「津波防護対象設備を内包する建物及び区画への津波の流入を防止できる・・・」に適正化しました。	2021/11/30	
24	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.53	新設するタービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間を既設弁の動作実績等を考慮して設定していたが、詳細設計の段階で「約40秒」の設定は困難なことが判明したため「約60秒」へ変更しました。これに伴い、地震発生から破損箇所隔離までの時間を「約85秒」から「約105秒」に変更しました。	2021/11/30	
25	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.53	「表3-13 タービン建物（復水器を設置するエリア）の床面積及び容積」について、防水壁の設計反映等による溢水を貯留できる容積を変更しました。 高さ区分EL 2.0～EL 5.3をEL 2.0～EL 4.9とEL 4.9～EL 5.3に分割 EL 2.0～EL 5.3の容積：5066m ³ ⇒4863m ³ (=4452+411)	2021/11/30	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
26	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.54	タービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間の変更に伴い、タービン補機海水系配管の損傷箇所からの溢水量を「約88m ³ 」に見直しました。また、併せて系統保有水量を約129m ³ との合計を「217m ³ 」に見直しました。	2021/11/30	
27	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.54	漏えい検知高さの変更等に伴い、溢水量及び浸水水位を変更しました。(なお、浸水水位については小数点第2位以下の切り上げにより記載上変更はない。) 溢水量：5901m ³ ⇒5913m ³	2021/11/30	
28	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.54	「表3-15 タービン建物（復水器を設置するエリア）における溢水量及び浸水水位」について、漏えい検知高さの変更等に伴い、溢水量及び浸水水位を変更しました。 基準床レベルをEL 0.25～EL 2.0, EL 2.0～EL 4.9, EL 4.9～EL 5.3に3分割 溢水量：4103m ³ ⇒5913m ³	2021/11/30	
29	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.55	新設するタービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間を既設弁の動作実績等を考慮して設定していたが、詳細設計の段階で「約40秒」の設定は困難なことが判明したため「約60秒」へ変更しました。これに伴い、地震発生から破損箇所隔離までの時間も修正しました。	2021/11/30	
30	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.56	「浸水防護重点化範囲への浸水を防護するため」の「浸水」は誤記であるため、「浸水防護重点化範囲への津波の流入を防止するため」に適正化しました。	2021/11/30	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
31	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.56	「浸水設備」は誤記であるため、「浸水防止設備」に適正化しました。	2021/11/30	
32	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.77~79	「表3-17 漂流物影響評価結果(構内陸域)」について、漂流又は活動するものの評価結果が現状の文章、表中から読み取れないため、表を追加しました。	2021/11/30	
33	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.84	八、衝突荷重として用いる漂流物の選定において「各種論文等にて提案される漂流物の衝突荷重算定式の中から適切なものを選定し算定することとし、」と記載していたが、島根は非線形構造解析を用いる方針としており、現状の文章では読み取れないため、「各種論文等にて提案される漂流物の衝突荷重算定式、又は非線形構造解析の中から適切なものを選定し算定することとし、」に記載を適正化しました。	2021/11/30	
34	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.107,108	新設するタービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間を既設弁の動作実績等を考慮して設定していたが、詳細設計の段階で「約40秒」の設定は困難なことが判明したため「約60秒」へ変更しました。	2021/11/30	
35	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.108	「表4-1 警報発信後の隔離時間の設定」について、新設するタービン補機海水ポンプ出口弁の閉止時間を既設弁の動作実績等を考慮して設定していたが、詳細設計の段階で「約40秒」の設定は困難なことが判明したため「約60秒」へ変更しました。これに伴い、隔離までの合計時間を変更しました。	2021/11/30	
36	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.109	「図4-3 漏えい検知器及びタービン補機海水ポンプ出口弁配置図」の凡例の、「漏えいを検知するエリア」の「検知器」は誤記であるため、「漏えいを検知するエリア」に適正化しました。	2021/11/30	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
37	NS2-添1-004改01	VI-1-1-3-2 津波への配慮に関する説明書	p.112	「放水槽へ流入する可能性のある津波高さEL 7.9m余裕を考慮した」を「放水槽へ流入する可能性のある津波高さEL 7.9mに余裕を考慮した」に適正化しました。	2021/11/30	